

次の世代にむけて — 知の循環としての図書館 —

葛飾図書館は入り口から1階ホール全体が見渡せ、初めて訪れる人に「入ってみたい」と感じさせます。そして入館すると圧倒される重厚感があります。館内を廻るとインテリアや装飾など、今までの本学の建物では体験したことがない、意外性があります。利用者はその1つ1つに「新世界」を見つけるのではないのでしょうか。利用回数が増え慣れてくると、滞在型の図書館として活用する利用者も多く、環境に配慮し快適性を追求した新しい時代に合った図書館です。

一般的に図書館は古代より人類の英知を蓄積してきたところですが、最先端の科学技術を追い続ける本学では、古から伝わる普遍的知識を大切にしながら新しい知識を生み出し、更に技術開発を続け、現在も独創性を重ねた挑戦を続けています。葛飾図書館は、知の集約された静粛な環境の中で、利用者の集中力や感性を高め、研究のテーマや開発のヒントを見つける「新世界」への扉を開ける役目も担っています。

明治期からの本学の歴史を遡ると、「国運発展の礎」として、多くの教育者や科学者が巣立っていきました。この人々の多くは本や雑誌などの印刷された資料を探し、自己の考えや研究をまとめることに勤しんでいました。おそらく図書館の中では、終始沈黙していたことでしょう。当時、館内で仲間同士が自由に自分の考えを発表しあう環境はありませんでした。現代の巨大で精緻な産業技術では自己の考えを正確にチーム内の相手に伝えるコミュニケーション能力が求められています。葛飾図書館は東京物理学校及び東京理科大学という100年以上の重い伝統の上にあります。館内のラーニングコモンズは、新しい時代を切り開く若者のコミュニケーション能力を高める大切なツールとして、多くの学生達に利用されています。

館内の広々とした空間では、学生同士がグループを作り、自主的に学習・研究、発表等に、快活に自由に取り組んでいます。そのため、館内には固定したパソコン等のIT機器の設置をできるだけ省いています。自由に学生同士が話し合い、知識を深め、助け合うことが学習効果を高めています。同学年の少人数の学生にはグループ学習室を、研究室の先生や先輩と学ぶときには多目的室をと、館内のラーニングコモンズは使用する目的とメンバー構成にあわせて、効率的に運用されています。

隣接するカフェは公園の景観を活かし開放的でダイナミックに建てられていますので、学習や研究の疲れから解放し、気分をリラックスさせてくれます。少しの間だけ心を休め、カフェが作り出す雰囲気の中に誘ってくれます。科学教育センター「わくわく未来館」には、未来に繋がる「科学」を牽引して行く多くの子供達が、科学の勉強に訪れます。

今、電子化が進む中、私たちはより一層先人達が残してくれた知の記録である「本」を大切に取り扱い・活用していきたいと望んでいます。急速に進歩する部分は電子資料を利用し、更に知の水準を高めることを目標としています。開発された技術がその役目を終え、次の新しい技術にバトンタッチするように、知から知への循環が織り成され、幾世代にも渡り知識が再生し「新世界」を創り続けるところが、葛飾図書館であって欲しいと願っています。

